

自分らしく輝く

Free Style

はない みのる
花井 実さん

(学校法人田原学園 蔵王幼稚園 主幹教諭)

子どもが好きだったことがきっかけで、興味を持った幼稚園教諭という仕事。女性の多い職場で、毎日、子どもたちのすてきな笑顔に囲まれて、自分らしく輝いている花井先生にお話を伺いました。



Q 幼稚園教諭になろうと思ったきっかけは？

A 小学校3年生の時、家の近くに蔵王幼稚園ができて、いつも賑やかな声が聞こえて来て「こんなところで働けたらいいなあ」と子どもとの触れ合いに魅力を感じていました。子どもが好きだということもありましたが、男性である初代の野尻園長先生や当時体育の先生であった高瀬先生（現園長）の姿を見て、一層思いもふくらみました。

Q 保育に対するイメージは、仕事を狙っている時と実際にやってみるとでは違いがありましたか？

A 女性の多い職場だと思ってはいましたが、入ってみると、男性も女性も関係ないな！と思いました。子どもを育てるうえでは、父性愛、母性愛ともに必要だと思います。イメージの違いを感じることは特にないですね。

Q 印象深い出来事をご紹介下さい。

A 初めて担任となった時に保護者の方から「先生、本当に大丈夫ですか？」と声をかけられました。ピアノや細かい作業などが出来るのだろうかかと心配されたものだと思いますが、悔しい思いもあり、自分を大きく成長させてくれました。一年が終わった時には、感謝の言葉をいただき、信頼を得ることが出来たと実感できました。



▲元気いっぱい子ども達と歌う花井先生

Q どのように自分らしさを発揮してきましたか？

A 生活習慣の基本的な事柄もきちんと教えますが、どちらかといえば、大らかさを持ち味としています。成長に伴い、ダイナミックな遊びを要求する園児にも応えることができますね。普段は優しく、時には厳しく、お父さんのように園児に接することを心がけています。

Q 特に苦勞したことは何ですか？

A 学芸会の衣装づくりには、最初のころは苦勞しました。学校時代に家庭科の授業はほとんどなかったので、母親や周りの先生に教えてもらいながらやってきました。今では、同僚からも聞かれる程までに腕前もあがったと思います。

Q 仕事のやりがい、これからの目標はなんですか？

A 卒園生が親として子どもを入園させてくれた時や、当時を振り返り思い出話をしてくれる時など、うれしくもあり改めてやりがいを実感できます。仕事や職場においては、性差を意識することなく、同僚たちとともにお互いの良さを出し合って、子ども達の成長を見守っていきたいと思います。子どもにも職場にも刺激を与えられるよう頑張っていけたらと思います。



▲プールの時間は、みんなで大はしゃぎ